

国立病院機構熊本医療センター POTT 研修会だより

日時 2016年5月26日 13時30分～15時30分

参加者 24名 講義 迫田綾子

演習指導 摂食・嚥下障害看護認定看護師：田平佳苗 竹市美加 安部幸

4月に発生した熊本地震で、5月予定していたPOTT研修会は延期か・・・とと思っていましたが、看護部から「患者さんに還元できることは、積極的にやりたい」とのお返事をいただきました。倫理審査も迅速承認があり、研修会が実現しました。当日は摂食嚥下チームの研修会として、看護部長、師長、嚥下チームの方々の参加で、真剣な中にも和やかに進みました。



病院は、熊本城の隣。加藤清正築城の折りに、井戸を100個以上掘ってあり、病院では現在も使用中で、地震の時にも断水を免れたそうです。

地震の際は、救急救命の拠点として看護部も不眠不休の活動をされていました。



ベッドの
角度は・・・

演習は、ベッド上ポジショニングと車いすシーティング。食事介助。4グループワークに分かれ、認定看護師がアドバイザーをしました。

「こんな研修会が
やりたかった！」
と看護部長さん



大分県からボランティア
で安部 CN さんも参加。





今日からPOTTメンバー！
患者さんへ“ポジショニングで
食べる喜びを伝える“仲間！
看護の楽しさと、素晴らしさを
伝えます！



研修会が終わって、ほっと一息。
広い院内の、ポスターの前で・・・。
講師名には、田平佳苗 CNの名前も！
活動が着実に進んでいるようです。
田平、安部、竹市さん

<振り返り；参加者の声>

- ・ポイントがたくさんあった。患者の表情をみるのが大切であるということが分かった。
- ・根拠を分かっていたつもりだったが、患者体験をして不快感が良く分かった。スタッフにも伝えていきたい。
- ・日頃のポジショニングは甘かった。体位も崩れていくが多かったし、適切に調整ができていなかった。
- ・背抜きや調整など、看護でできるすごいことだと思った。習ったことを病棟で伝達していきたい。
- ・手当て、背抜き、患者の気持ちよさが実感できた。内服の時などポジショニングができていなかった。
- ・ポジショニングを意識していたが甘かった。足底接地を伝えたい。
- ・30度、60度が思っていたのと違った。背抜きの気持ちよさが分かった。今日の体験を患者に生かしたい。
- ・普段のポジショニングは崩れて、安楽に行かないと感じた。背抜きもできていなかった。
- ・60度の角度が分かった。圧抜きが気持ちがよいことが分かった。食形態の違いで食べやすいことがわかった。
- ・(車椅子の) たわみ補正で、安定が違った。
- ・不快感などたくさん気づけた。スタッフにも体験してもらってケアに生かしたい。
- ・経管栄養中もポジショニングが重要。訴えられない患者が多いので、体幹の安定や姿勢の調整を行っていき

たい。

- ・背抜きや上肢の安定など行った。ポジショニングで、食べることができない患者が食べることができるのではないか。
- ・角度の認識が再確認できてよかった。患者役をすることで、不快な姿勢、心地よい姿勢が体験でき、看護に活かせると思いました。楽しい研修でした。
- ・今回のポジショニングで実体験をすることで、介助される側の気持ちよさもわかりました。少しの手当てやタオルの設置で気持ちよさが大きく変わりました。病棟に伝達していきたいです。
- ・普段自分で行っていたケアの不十分さに気づけました。患者さんの安楽を重視した看護ができるよう努力しようと思いました。また、スタッフと共有し統一した看護を行えるようにしようと思いました。
- ・研修で体験したことを、良い点悪い点すべてスタッフへ根拠も交えて伝えていきたい。スタッフが少しでも興味を持ってセッティングしてもらえるよう努力したい。
- ・ポジショニングをきちんとできるようになって、患者さんの笑顔を増やしたいと思いました。
- ・体験しながらの研修できたので、わかりやすかったです。
- ・安楽なポジショニング・技術を学ぶにあたり、患者体験ができたことが大変貴重なことでした。今後今回の研修を活かし、細やかなケアや指導につなげていきたいと思います。

—記録 熊本医療センター 田平佳苗—

熊本医療センターの皆様、ご協力と出会いに感謝致します。そして、地震災害からの 1 日も早い復興を祈ります。

日本赤十字広島看護大学 迫田綾子記